

戦国時代まで大名・相馬氏の本拠地で、浮舟城と呼ばれた小高城があった福島県南相馬市小高区^{II}写真^{II}は、東日本大震災当日から住めない町になりました。福島第一原発から二十^{II}圈内の避難指示区域となり、着の身着のまま避難を余儀なくされ、戸惑いと混乱があったに違いありません。

東北 復興日記



▶▶▶ 195

ベテランママの会代表
番場さち子さん



避難指示解除も平穏遠く

今年七月十二日、原発事故から五年四カ月ぶりに解除になり、駅前を中心に約一万三千人いた住民のうち、千人に満たない高齢者たちを中心に帰還しました。

今年七月十二日、原発事故がオープンしましたが徒歩で三十分ほどかかり、毎日の暮らしには不自由さが残ります。週末に訪ねてくる娘には

私が主催するニットサークルに通う七十代後半の女性は、帰る意志が強いご主人と二人だけで帰還しました。住民がいる家は一番近くでも約五百^{II}離れていて、「明かりが見えない生活になった」と嘆いています。その女性は車が運転できません。買い物に出るには大型スーパーまで十五^{II}もあります。駅前に店

「生きのいい魚が食べたいとせがむの」と女性は言いま

サークルに来て、仲間とたわいない話をするのが生きがいになっているとのこと。

「自分の田んぼは津波の塩害で、もう米作はできないだろう。この年になって、他所から米を買って食べるようになる」とは夢にも思わなかった」とも。ニットサークルの集まりの日には夫が送迎してくれるという女性。「帰りはスーパーに寄って久しぶりの買い物をしてから帰る」とう

別の女性は九十歳をとうに過ぎた姑と、震災後に体調を崩したご主人を抱えて小高に帰還しました。イノシシやイノブタ、猿などが増え、農作物を荒らすので「もう畑はやらない」と言います。ニットサークルに来て、仲間とたわいない話をするのが生きがいになっているとのこと。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

